



The Japanese Red Cross Society of Nursing Science

Vol.4, 2006.

日本赤十字看護学会

NEWS LETTER

日本赤十字看護学会ニュースレター 第4号 2006年12月発行

— 1 —



「赤十字社を評価するのは、
建物の大きさでも車両の数でもなく、
赤十字の理想への情熱です。」

解説 赤十字の基本原則 人道機関の理念と行動規範
(ジャン・ピクテ著／井上忠男訳、p87、東信堂)より

◀被災者の治療にあたる日本赤十字社の医療要員
(2005年3月 インドネシア、ニース島)

写真：日本赤十字社

理事長挨拶

理事長 新道 幸恵

会員の皆様には、変革の時代といわれる今日、大小様々な変化に見舞われながらも、看護専門職者として、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、今年、日本赤十字秋田短期大学にて行われました第7回学術集会の折りに、開催されました総会において、新役員が承認され、第3期の理事会が発足致しました。草創期から理事長をお勤めになりました樋口康子先生の後を引き継いで、理事長の任をお引き受けすることになりました。樋口先生は、赤十字社の理念である「人道Humanity」を学会の理念とし、赤十字の看護の発展を目指して、本学会活動を今日まで導いてこられました。樋口先生の赤十字看護及び本学会に対する高邁な理想を継承して実現に向けて努力することが今期の理事会の責務と考えています。

看護の学会は、日本看護科学学会が1980年代に発足して以来今日まで30を超える数になりました。このことは看護学の発展の成果でありますし、今後の発展を方向付けることを示し、心強いことです。しかし、その一方で、本学会のユニーク性をどのようにアピールしていくかが問われることでもあります。言い換えると、赤十字看護の固有な学術性を実践、教育、研究活動の中に、見いだして、社会に示し、発展させていくという課題が示されているといえます。このことへの具体的な活動として、「臨床看護実践開発事業」を取り上げました。これは、昨年度に発足しました看護系学会など社会保険連合（看保連）の課題への本学会の取り組みでもあります。また、赤十字活動の中核ともいえる国際的な活動について、本学会における取り組みも検討しなければならないでしょう。

役員一同が一致協力して、会員の皆様のご期待に添えるよう努力致しますので、本学会への関心とご意見をお寄せ下さいますようお願い致します。

平成18年総会にて、以下の新理事・新評議員が承認されました。

(五十音順) 評議員名簿 (任期：平成18年度総会/H18.6.16～平成21年度総会)

氏 名	所 属	氏 名	所 属	氏 名	所 属
理 事 長 新道 幸恵 (青森県立保健大学)	大西 章恵 日本赤十字北海道看護大学	川尻イヅナ子 日本赤十字社医療センター	望月 津子 静岡赤十字病院		
副理事長 守田美奈子 (日本赤十字看護大学)	尾山とし子 日本赤十字北海道看護大学	竹内 幸枝 日本赤十字社医療センター	井川 玲子 長浜赤十字病院		
理 事 安達 祐子 (日本赤十字看護大学)	二ツ森栄子 日本赤十字北海道看護大学	本庄 恵子 日本赤十字看護大学	樺山たみ子 姫路赤十字看護専門学校		
奥野 茂代 (長野県看護大学)	西方久美子 日本赤十字北海道看護大学	福島 道子 日本赤十字看護大学	黒田美也子 日本赤十字社和歌山医療センター		
最所 浩美 (日本赤十字社看護部)	八矢 幸美 北見赤十字病院	前田久美子 日本赤十字社東京都支部	松近 昌子 大阪赤十字看護専門学校		
	休波 茂子 日本赤十字北海道看護大学	舩森とも子 葛飾赤十字病院	松本 尚子 京都第一赤十字病院		
	大場美代子 仙台赤十字病院	守田美奈子 日本赤十字看護大学	阿部 直美 広島赤十字・原爆病院		
杉浦美佐子 (日本赤十字豊田看護大学)	烏 トキエ 秋田赤十字病院	谷津裕子 日本赤十字看護大学	鈴木真知子 日本赤十字広島看護大学		
	佐々木理恵子 日本赤十字秋田短期大学	吉田みつ子 日本赤十字看護大学	氷見留美子 前鳥取大学		
野口 眞弓 (日本赤十字広島看護大学)	新道 幸恵 青森県立保健大学	市江 和子 日本赤十字豊田看護大学	野口 眞弓 日本赤十字広島看護大学		
原 玲 子 (日本赤十字社 幹部看護師研修センター)	天野 幹子 日本赤十字社医療センター	大島 弓子 愛知県立看護大学	野村 美香 日本赤十字広島看護大学		
	江本 リナ 日本赤十字看護大学	奥野 茂代 長野県立看護大学	平木 民子 香川県立保健医療大学		
福島 道子 (日本赤十字看護大学)	大和田恭子 日本赤十字社医療センター	小森 和子 名古屋第一赤十字病院	江田 柳子 福岡赤十字病院		
	川上 潤子 日本赤十字社医療センター	佐藤 栄子 藤田保健衛生大学	江藤 節代 日本赤十字九州国際看護大学		
二ツ森栄子 (日本赤十字北海道看護大学)	小宮 敬子 日本赤十字看護大学	杉浦美佐子 日本赤十字豊田看護大学	大内田真澄 前福岡赤十字病院		
監 事 竹内 幸枝 (日本赤十字社医療センター)	最所 浩美 日本赤十字社看護部	多喜田恵子 愛知医科大学	高島和歌子 熊本赤十字病院		
	佐々木幾美 日本赤十字看護大学	畠山 悦子 長野赤十字病院	寺門とも子 唐津赤十字病院		
前田久美子 (日本赤十字社東京都支部)	柴田レイ子 NPO法人 生と死を考える会	宮門 郁代 山田赤十字看護専門学校	本田多美枝 日本赤十字九州国際看護大学		

「臨床看護実践開発事業」活動の開始

— “伝えたい看護の技” 委員会 —

平成17年度に、看護系学会協議会が中心となり看護系学会等社会保険連合（以下「看保連」という）が設立されました。看保連は「国民の健康の向上に寄与するために、科学的・学術的根拠に基づいて、看護の立場からわが国の社会保険のあり方を提言し、診療報酬体系および介護報酬体系等の評価、充実・適正化を促進する」ことを目的としています。本学会も含め、看保連に所属している各学会は、診療報酬体系に組み込むような看護技術の選択あるいはそのエビデンスの蓄積などに向けて、活動を始めております。

このような経緯を受けて、本学会では「臨床看護実践開発事業」を新しく企画し、今年の総会で皆様からの承認を受け、活動を開始致しました。この事業は、赤十字の看護実践のなかで、ケア効果が期待されるような優れた実践活動や技術を掘り起こし、それを伝承したり、広げたりすることを目標にしています。

今年度の活動計画は、赤十字の理念のもとに長年培ってきた看護の技、臨床の中に隠れている看護の技を発掘すべく、皆様が実践されている看護に関する情報を収集したいと考えております。その結果を基に今後の活動を拡大していく予定です。

会員の皆様が、日々当たり前のように実践している看護の中に他の人にも伝えたい優れた技や工夫、特徴があると思います。少し立ち止まって自分達が行っている看護を見つめ直して見ませんか。

現在、病棟で取り組んでいるユニークな看護実践、地域特性を活かして取り組んでいる看護実践、先輩から引き継いで後輩に是非伝えたいと思っている看護の技などを是非お知らせ下さい。自薦、他薦なんでも結構です。

情報提供の連絡先は、下記の委員に直接、あるいはホームページの“伝えたい看護の技”

(<http://plaza.umin.ac.jp/%7Ejrcsns/cgi-bin/bbs/patio.cgi>) というコンテンツを電子掲示板とし、24時間受け付けていますので、是非ご活用ください。

日本赤十字看護学会員共通ID、パスワードは ID : jrcsns パスワード : nisseki です。

会員の皆様に本委員会の活動の主旨をわかりやすくお伝えするために、委員会名称に“伝えたい看護の技”委員会というサブネームを加えました。これから「伝えたい看護の技」委員会という名称を記憶に留めて頂き、この名称を通して活動主旨を共有していただけることを目指しています。

委員長 ニツ森 栄子（日本赤十字北海道看護大学）

委員 守田 美奈子（日本赤十字看護大学）

川嶋 みどり（日本赤十字看護大学）

竹内 幸枝（日本赤十字社医療センター）

山本 美紀（日本赤十字北海道看護大学）

委員長 野口 眞 弓（日本赤十字広島看護大学）

研究活動委員会

平成18年8月10日付けで、筒井真優美先生の後任として、研究活動委員会の委員長に就任いたしました。新委員会は、私のほかに、長野県看護大学の奥野茂代先生、日本赤十字広島看護大学の渡辺恭子先生の2名です。新委員会では、前委員会の活動を受け継ぎ、会員の皆様の研究活動がさらに発展ができるように活動してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

研究活動委員会は、臨床における研究活動の支援と研究助成を担当します。本委員会は、臨床における研究活動を支援するために、平成13年度から年1回の看護研究セミナーを企画し、これまでに6回のセミナーを開催しております。これまでのセミナーの主な目的は、第1回～第3回が臨床における研究を活性化すること、第4回～6回が臨床におけるアンケート調査を充実したものにするものでした。新委員会が第7回～9回の看護研究セミナーを企画、運営します。これから3回の看護研究セミナーでは、東京医療保健大学の北素子先生に質的研究について初心者が戸惑うところをわかりやすく解説いただく予定です。看護研究セミナーは、本学会の学術集会にあわせて開催いたしますので、学会員の皆様のご参加をお待ちしております。

また、看護実践に関する研究のための研究助成を平成16年度から開始しております。研究助成は、平成16年度が2件、平成17年度が1件、平成18年度が4件です。平成19年度研究助成の応募期間は平成19年2月1日～2月28日までです。助成総額は年間60万円で、研究1題について30万円を限度として交付しています。

助成期間が2年に変更になり、研究がすすめやすくなっております。本学会のホームページに募集要項、申請書などがございます。皆様のご応募をお待ちしております。

委員長 野口眞弓（日本赤十字広島看護大学）

委員 奥野茂代（長野県看護大学）

渡辺恭子（日本赤十字広島看護大学）

学会誌編集委員会

委員長 福島 道子（日本赤十字看護大学）

このたび理事改選とともに、学会誌編集委員会委員長に就任いたしました福島道子です。
会員の皆様のご協力、どうぞよろしくお願いいたします。
また、編集委員会も、平成18年度から新しいメンバー構成で活動していきます。
委員会構成は、以下の通りです。

委員長	福島 道子	（日本赤十字看護大学）
委員	岸 恵美子	（日本赤十字看護大学）
	江本 リナ	（日本赤十字看護大学）
	唐澤 由美子	（長野県看護大学）
	刀根 洋子	（日本赤十字看護大学）
	中村 美知子	（山梨大学大学院）
	本庄 恵子	（日本赤十字看護大学）
協力者	望月 由紀子	（日本赤十字看護大学）

以上の編集委員に比べ、平成18年度は49名の専任査読委員におそろいいただき、学会誌第7巻の査読・編集・刊行を行います。

なお、第8巻は平成19年8月末を締め切りとして募集いたします。

会員の皆様には、日頃の活動の成果を論文という形にしてどうぞ積極的に投稿していただきますようお願いいたします。

なお、投稿先は下記のように日本赤十字看護大学となりましたので、ご注意ください。

〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学

日本赤十字看護学会編集委員会事務局

広報委員会

委員長 杉浦 美佐子（日本赤十字豊田看護大学）

広報委員会の主な活動は、1. ニュースレター発行（2003年度から、年1回毎年12月）と、2. ホームページの管理運用です。

ニュースレターは、学会からの情報発信や、会員の声・情報を紹介するなど情報交流を目的とします。また、速報性のある情報や募集等に重点を置きますので、年に一回とはいえ、重要な情報を掲載していきます。

ホームページ（HP）は、日本赤十字看護学会の活動を広く伝え、会員へのサービス向上に資することを編集方針といたします。最近の医療・看護の現場では、厚生労働省がe-Japan 重点計画の一環（保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザイン）として、“平成18年度までに全国400床以上の6割以上の病院、全診療所の6割以上に電子カルテを普及する”“平成18年度までに全国の病院レセプトの7割以上にレセプト電算処理システムを普及する”という目標を提言したことを受けて、急速に情報化が進展してきています。

会員の皆様方におかれても、この数年で、PC、Eメール、インターネットなどが随分身近になったと感じておられると思います。このような状況を鑑みて本学会のHPも、ますます電子メディアの特性（入手しやすさ、速報性、双方向性等）を活かして、国内、国外の赤十字の看護実践に関すること、赤十字看護の教育や研究に関すること、看護学の知識や技術に関することを情報発信していく所存です。あわせて、学会誌電子化（CD-ROM版に加えて電子化論文を模索）と、学会員間の双方向性の実現（電子掲示板の設定や「臨床看護実践開発事業」として“伝えたい看護の技”＝赤十字の理念のもとに長年培ってきた看護の技、臨床の中に隠れている看護の技を発掘する場の設定）を計画しております。

学会員皆様方のご要望・ご意見をいただきながらよりよいニュースレター、HPをお届けする所存です。どうぞご期待ください。

委員長	杉浦美佐子	（日本赤十字豊田看護大学）
委員	小森 和子	（名古屋第一赤十字病院）
	多喜田恵子	（愛知医科大学）
	松田日登美	（日本赤十字豊田看護大学）
	小林 純子	（日本赤十字豊田看護大学）

第7回日本赤十字看護学会学術集会を開催して

第7回学術集会会長
日本赤十字秋田短期大学 今泉 正子

第7回日本赤十字看護学会学術集会には多数の皆様にご参加いただき、無事終了することができました。有難うございました。

講演・シンポジウム・テーマセッション・座長などご担当くださいました先生方にも感謝申し上げます。またこれは、本学学長はじめ教職員・学生のボランティアが一丸となって取り組んだ結果であり、心よりお礼申し上げます。

今回は受託してから、開催場所の変更から始まり、会長の交代と大変慌ただしく、学会本部の皆様にはご心配ご迷惑をおかけいたしました。

本学は、東北でも交通が不便であり、多くの方に参加していただけか不安でしたが、演題数は72題で、参加者は344名（会員238名、非会員48名、学生58名）と予想以上でした。また、公開講演の市民参加も多く安堵致しました。

アンケート結果は参加者の1割の回答でしたが、メインテーマ（「いま、

求められる赤十字のヒューマンケアと看護実践」）に対する評価では82%の方が「よかった」という回答であり、またシンポジウム（「赤十字看護への期待」）では「満足」が55%で、「満足できなかった」（21%）を大きく上回っていました。テーマセッションでは、「意見交換ができた」（30%）と「できなかった」（30%）が同率でした。話題提供後の意見交換がもっとほしかったように感じました。公開講演（「音楽で癒されるころとからだ」）では「満足できた」がほとんどであり、「あまりできなかった」は3%のみでした。また、感想の中には研究コーナーについて「内容や講義が分かりやすい」とあり、次回も是非続けてほしいと思います。懇親会では、当地の自慢であります「なまはげ太鼓」も楽しんでいただけたようで本当にうれしく思いました。

決算では60万円が剰余金となり本学会の収入といたしました。最後に、本学会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

第8回日本赤十字看護学会学術集会にあたって

第8回学術集会会長
日本赤十字豊田看護大学 小西 美智子

第8回日本赤十字看護学会学術集会を、日本赤十字豊田看護大学で平成19年6月16日（土）・17日（日）に開催いたします。日本赤十字豊田看護大学は平成16年4月に、日本赤十字愛知短期大学を発展的に引き継ぎながら、4年制の看護大学として愛知県豊田市に誕生し、ようやく3年目を迎えたばかりです。この度伝統ある日本赤十字看護学会学術集会を開催する事に多くの不安はありますが、同じ愛知県にありますが名古屋第一赤十字病院および名古屋第二赤十字病院の看護部のご協力を得ながら、今年の6月に企画委員会を設置し、開催に向けた準備を行っています。

我が国は高齢社会となり、悪性新生物、虚血性心疾患、脳血管疾患等の生活習慣病に罹患している者が増加し、また医療・看護ケアを受けながら在宅療養生活している者も多くなっています。これら疾病の回復や疾病予防、健康づくりを、看護職として支援しその機能を果たすために、地域社会にある社会資源を看護職がどう活用できるかが影響すると思います。そこで学術集会テーマは「看護活動と地域社会との協働」とし、看護活動について地域社会にある種々の保健・医療・福祉機関、保健医療福祉職および住民との協働のあり方を模索したいと考えました。

学術集会の内容としては、企画委員会ではシンポジウムとして退院指導を中心に病院の看護ケア、訪問看護ステーションからの看護ケア、地域保健からの看護ケアの実態と連携への課題について、テーマセッションでは赤十字理念と看護活動の推進、看護職の現任教育、自然災害に対応する地域ネットワークづくり等を考えています。そのほか学会研究活動委員会は看護研究コーナーとして質的研究について企画されています。また学会員である皆様方からは、一般演題および交流セッションに、日頃の看護実践成果や看護研究報告を多数応募をしていただける事を期待しています。

赤十字病院における看護ケアは人々の疾病予防、疾病回復、また安らかな死を支援し、地域の中核病院として歴史的に多くの業績を積み重ねてきました。さらに赤十字病院を拠点にした地域社会に貢献できる看護活動について、この学術集会において討議し発展できればと考えています。

会場となる日本赤十字豊田看護大学は、名古屋市の中心地からは少し離れていますが新緑に囲まれた自然豊かなキャンパスです。皆様の参加を企画委員会および教職員共々お待ち申し上げます。

「第8回日本赤十字看護学会学術集会」演題を募集中です。 募集期間:2006年11月25日(土)~2007年1月31日(水)<必着>

- * 発表者・共同研究者は会員であることが必要です。未入会の場合、演題応募の際に入会手続き（同時に年会費を納入願います）をおとりください。事前登録の際にその旨をお書き添えください。
- * 会員の皆様には、「開催のご案内」をお送りしておりますが、ご不明な点がございましたら学術集会事務局にお問い合わせください。

問い合わせ先 日本赤十字豊田看護大学 第8回日本赤十字看護学会学術集会 事務局
〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲12番33 FAX: 0565-37-8557 E-MAIL: jrc-8@rctoyota.ac.jp

INFORMATION

「臨床看護実践開発事業」活動の開始 — “伝えたい看護の技”委員会— が、日本赤十字看護学会HP内に、「赤十字の理念のもとに長年培ってきた看護の技、臨床の中に隠れている看護の技を発掘すべく」「伝えたい看護の技」電子掲示板

<http://plaza.umin.ac.jp/%7Ejrcsns/cgi-bin/bbs/patio.cgi> を開設しました。日本赤十字看護学会員共通ID、パスワードは以下です。ふるって投稿してください。
ID : jrcsns パスワード : nisseki



NEWS LETTER The Japanese Red Cross Society of Nursing Science Vol.4, 2006.
日本赤十字看護学会ニュースレター 第4号 2006年12月発行

- 発行 日本赤十字看護学会 広報委員会
愛知県豊田市白山町七曲12番33 日本赤十字豊田看護大学内
FAX 0565-37-8558
- 学会ニュースレターは学会ホームページからダウンロードできます。
<http://jrcsns.umin.ne.jp>
- 学会ニュースレターに関する皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。
sugiura@rctoyota.ac.jp
matsuda@rctoyota.ac.jp までお願いします。

- 編集後記
6月の総会で新理事・評議員が承認され、委員会も新メンバーで活動開始です。ニュースレター第4号では、新体制・委員会活動と「臨床看護実践開発」活動、学術集会を紹介しています。会員の皆さまへの情報提供と支援、さらには皆さまからの情報提供が、本学会ならびに赤十字看護活動の向上につながることを願って、活動をしてまいります。ご意見ご要望や情報ございましたら、広報委員会までお寄せください。どうぞご協力お願いいたします。